

趣旨

- ◆ 少子高齢化が一層進む中で、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進に向け、人口及び疾病構造の変化に応じた適切な医療提供体制の整備が必要である。
- ◆ 患者のケアを担う看護職員の就業場所は、医療機関に限らず在宅や施設等へ拡がっており、多様な場において、多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待されており、患者の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められている。
- ◆ 保健師においては、保健・医療・福祉・介護等の各分野及び関係機関、住民等との連携及び協働を支え、持続可能でかつ地域特性を活かした健康なまちづくり、災害対策等を推進することが求められ、助産師においては、周産期医療の高度化がさらに加速する中で、女性の生涯における性と生殖について、家族や地域社会に広く貢献することが期待されている。
- ◆ 看護師については、共通して求められる知識や能力が培われるよう教育カリキュラムを拡充し、准看護師については、プライマリ・ケアや介護の現場でより活躍できるよう教育カリキュラムを見直す必要がある。
- ◆ また、「医師の働き方改革に関する検討会」が平成29年8月に設置され議論が開始されており、医師-他職種間等で行うタスク・シフティング(業務の移管)の有効活用についても指摘されている。



本検討会においては、看護職員を取り巻く状況の変化及び現在の教育実態を踏まえ、**将来を担う看護職員を養成するための看護基礎教育(※)の内容と方法**について、具体的な検討を行うことを目的とする。 ※保健師、助産師、看護師、准看護師について

検討事項

- ◆ 看護基礎教育を取り巻く現状と課題
- ◆ 将来を担う看護職員に求められる能力
- ◆ 免許取得前に習得すべき能力を養うために必要な教育内容と方法
- ◆ 教育の多様性への対応(教育方法、教育体制等)
- ◆ 今後の教員や実習指導者等のあり方

スケジュール

- 平成30年4月 第1回検討会
看護師、保健師、助産師、准看護師の各WGを順次開催
- 平成31年夏頃 検討会とりまとめ

構成員

◎:座長

- | | | |
|--------|------------------------------|-----------------------|
| 安藝 佐香江 | 医療法人社団永生会 | みなみ野病院看護部長/法人本部統括看護部長 |
| 井伊 久美子 | 公益社団法人日本看護協会 | 専務理事 |
| 池西 静江 | 一般社団法人日本看護学校協議会 | 会長 |
| 井村 真澄 | 公益社団法人全国助産師教育協議会 | 会長 |
| 江崎 喜江 | 大阪府病院協会看護専門学校 | 副学校長 |
| ◎遠藤 久夫 | 国立社会保障・人口問題研究所 | 所長 |
| 太田 秀樹 | 一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会 | 事務局長 |
| 釜范 敏 | 公益社団法人日本医師会 | 常任理事 |
| 木澤 晃代 | 日本大学病院 | 看護部長 |
| 木村 元 | 一橋大学大学院社会学研究科 | 教授 |
| 酒井 郁子 | 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター | センター長 |
| 中島 由美子 | 医療法人恒貴会 | 訪問看護ステーション愛美園 所長 |
| 中西 亜紀 | 高槻市医師会看護専門学校 | 教務部長 |
| 額賀 修一 | 全国看護高等学校長協会 | 副理事長 |
| 馬場 武彦 | 一般社団法人日本医療法人協会 | 副会長 |
| 春山 早苗 | 自治医科大学看護学部 | 教授/学部長 |
| 菱沼 典子 | 一般社団法人日本看護系大学協議会 | 理事 |
| 福島 富士子 | 東邦大学看護学部 | 学部長 |
| 藤田 京子 | 藤戸田市医師会看護専門学校 | 副校長 |
| 前田 彰久 | 富山県厚生部長 | |
| 村嶋 幸代 | 一般社団法人全国保健師教育機関協議会 | 監事 |
| 山口 育子 | 認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML | 理事長 |
| 山田 雅子 | 聖路加国際大学大学院看護学研究科 | 教授 |